

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670400738		
法人名	有限会社 三友医療		
事業所名	さんゆうグループホームふいりあ		
所在地	米沢市万世町桑山4660番地		
自己評価作成日	平成23年8月17日	開設年月日	平成 15 年 04 月 01 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目 3—31		
訪問調査日	平成 23年 9月 13日	評価結果決定日	平成 23年 10月 4日

(ユニット名 ー)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に1回気分転換を兼ねてドライブや外出に出かけるようにしている。職員と共に歌を唄ったりゆったりと過ごして頂いている。入浴は一人ひとりゆっくと入るので、プライバシーが守られる。食事は職員が利用者の希望を聞いたり、季節の食材を使ったりと工夫利用者と一緒に食事作りをしてゆっくと召し上がっていたい。推進会議には地域の方や家族の方の参加もあり、いろんな話を聞く事が出来るので良い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

歌の好きな利用者が多く、毎朝職員と一緒に唄うことから一日の活動が始まり、日中はほとんどホールで皆と過ごし、家庭的な雰囲気の中でゆったりとした時間の流れが感じられ、ペット2匹の愛猫が癒しを与えてくれています。毎月恒例のドライブや外出は楽しみごとの一つになっており、「感謝している」「幸福だ」という言葉が利用者から聞かれ、職員との厚い信頼関係がうかがわれ、その人らしく穏やかな生活を支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は食堂、厨房、和室に掲示して毎朝朝礼で唱和している。ケア会議等でも職員全員で唱和し実践につなげている。	理念の中で利用者・職員・地域と三つがうまく融合し、その人のペースで時間に追われないゆつくりとした生活を支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーに食料品を買いに利用者と共に出かけたり、地域の運動会を観戦したりして、出来る限りの行事等に参加して交流を図っている。	町内会より、地区の行事や情報を得て、小学校の運動会や夏祭り見学に出掛けている。法人合同の夏祭りには地域や家族等の参加があり、近隣の方から花や野菜等をもらったり、また敬老会に折り箱を届ける等の交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等で認知症について地域の方に理解して頂くため話し合ったりしている。地域の行事等にも積極的に参加している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催して、事業所の状況報告やその時期に関わる議題を決め討論したり、意見を頂きながらサービスの向上に努めている。	2ヶ月毎奇数月に開催し、参加者から意見や地域活動の情報を聞き、事業所をよく知ってもらうことから始め、認知症の理解や避難訓練への協力依頼など、互いの橋渡しとして協働関係を作りたいと考えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に市の担当者へ出席頂き、いろいろな意見やアドバイスをお聞きして市との連携を図っている。	市と地域包括支援センターの担当者とは情報交換・相談事・連絡事項等の連携を図り、顔馴染みの関係になっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	当初より玄関に鍵はかけていない取り組みをしてきたが夕方帰宅願望の非常に強い利用者が入居されたため、時々玄関に鍵をかける事はあるものの、できる限り職員が対応して料理作りを一緒に行ったりしている。玄関にはチャイムを取り付けて、鍵をかけない工夫もして拘束しないで過ごせるように職員全員で取り組んでいる。	利用者で帰宅願望の強い方が一人で外出したことがあり、地域や家族等の協力で事なきを得たことがある。日課の散歩で気分転換をしたり、出掛けたいときは見守りながら一緒について行くなどの配慮をし、自由な暮らしを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止法等について社内研修を受け学んでおり、利用者の身体チェックも常にして防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の研修を受け、実際にその制度を活用しようとしても、利用者からの理解が得られない事がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書を読み合わせ説明し、特にリスクについては詳しく説明した上、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議等で家族の意見や地域の方の意見等は聞けるようになっていく。	毎月発行の「ふいりあ通信」で利用者の日頃の様子と担当職員から近況報告を添えて家族等に送付している。あまり言葉に出せない利用者にはそばに寄り添いスキンシップをし、表情やしぐさ等から喜怒哀楽を感じとるようにしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図り月1回のケア会議にも全員が意見を出しやすいように配慮しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回ケア会議を行い、職員全員と代表者に参加頂き、意見や提案を聞く機会を設けている。管理者もできるだけ職員とのコミュニケーションを取りながら意見を聞けるようにしている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社側と職員一人一人の面談が定期的に行われ、希望、要望など話合っている。	法人主催の研修会が毎月2回あり、職員全員が出席し、外部研修も交替で受講している。法人内の配置異動や資格取得奨励によりレベルアップを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	会社全体の研修が月2回開催してをり、全職員が参加できるように配慮されている。外部研修も積極的に参加して自社に戻って研修発表を行っている。	県グループホーム連絡協議会に加盟し、置賜ブロック会に参加して、研修会・交換実習・情報交換等を通して視野が広くなり、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に本人と面談し、要望や生活状態把握し不安などを充分話し合い、受け入れて頂けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前、本人との面談はもちろん家族の要望、不安等を聞き出来るだけ思いに沿ったサービスが出来るように話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いや家族の思い、実情を聞いて何が必要か見極め、職員と話し合いを行いサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅で過ごしている時と同じように、穏やかに生活ができるように声かけをして寄り添っている。料理を一緒に作ったり、洗濯物を干したりとごく普通の日常生活を送って過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加だったり、面会に来て頂いたりと家族の方には時々連絡を取り、施設での様子等を話しており、家族の方からいろいろな協力していただいている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者によって馴染みの人だったり、物だったり、場所だとその人にあった関係作り・支援につとめている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで楽しく過ごす時間作りをして、利用者同士が声かけあったり出来るよう職員も情報を共有し見守り・支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方や家族にも、いつでも立ち寄って頂けるような声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不穏の強い利用者に対しては、出来る限り寄り添う時間を大切にして、表情や行動、言葉などから思いを把握するよう努めている。家族からも情報を得て、出来るだけ思いに沿ったケアに努めている。	家族等からの情報や生活歴から利用者の思いや意向を把握し、職員と個別の入浴や散歩のときの何気ない会話からの本音を大切に考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で、プライバシーに配慮した生活歴などを聞いている。入所後も、関わりの中で聞いたり、家族の面会時にも聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルから1日が始まり、心身状態を把握して、一人ひとりの出来る力を引き出しながら、強制せず個々ペースで1日を過ごして頂けるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議等で、個々の生活機能、健康状態、精神面について話し合い、家族と本人、主治医の意見を取り入れて計画作成している。	本人のこれまでの生活を振り返り、これからどうしたいかという希望を取り入れ、職員全員と家族等、主治医の意見を反映し現状に合った介護計画が作成され、変化毎に見直しが行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫等を個別記録に記載しケア会議等で、情報を共有しながら介護計画の見直しにも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域での行事には出来る限り参加し、グループホームを理解して頂いて、散歩に出かけた時など気軽に声をかけて頂けるような雰囲気を作って、地域全体で支えられるように努力しています。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所のかかりつけ医の他に本人や家族が希望する馴染みのかかりつけ医がいる。協力医の往診は月2・3回行っている。</p>	<p>協力医への通院は職員が同行し、利用者や家族等が希望するかかりつけ医には、家族等の協力を得て対応している。受診結果は職員全員が受診報告書で確認し共有している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>往診時には看護師さんの気づいたこと等日常の健康管理のアドバイスを頂いている。隣接の事業所の看護婦さに常に相談等できる。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は交代でお見舞いに行くようにしており、退院にむけての面談、退院後の留意点など詳しい説明を受けるようにしている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化しても在宅生活が可能な限り、本人及び家族の意向に添い事業所で出来る事を十分説明し支援していく。</p>	<p>入居時、事業所の対応方針について家族等に説明している。重度化した場合は、職員・家族等・医師と話し合い、連携を図りながら支援に取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を全員受けており、急変時対応マニュアル等も活用して誰でも対応できるように見える所に置いており各自でも復習しながら実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月11日の震災時対応に戸惑う事があったので、きちんとしたマニュアルを作り職員全員がきちんと対応できるように年2回の訓練の内容も充実させていきたいと思う。	3月の大震災を経験し、反省点を十分に見直して、対応マニュアル作成を検討している。7月には防災会社指導の下に消火器の操作方法や消火の仕方等の訓練を実施している。11月には消防署の協力を得て、家族や地域の方にも参加要請し、2階から利用者を誘導する訓練を行なう予定である。	日頃より地域との関係作りに努めて、訓練にも地域の参加があるような協力体制を築くことを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを傷つけないよう言葉使いに気を付け、不適切な時はその都度声かけをして直していくように心がけている。	日常生活の中で、利用者のプライドを傷つけないような言葉遣いや声かけに、職員全員で対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	いろんな場面において利用者様が自己決定できるように、選択肢を提案するよう心がけている。意思表示できない利用者様においても、表情などを見逃さず本人の思いを把握するようになっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは有るものの、時間で区切る事のないように一人ひとりのペースに合わせて柔軟に対応している歌や、レクリエーション等においても強制せずそれぞれのペースに合わせている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴・洗髪後の整容や毎朝の着替え等もできるだけ、本人に決めて頂く様にしている。行事や外出時にも出来るだけ本人の希望を聞いてお化粧したりおしゃれを楽しんで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を聞いたりしながら、栄養のバランスも考えて、偏りのないように一緒に食事作りをしたり、洗い物・後かたづけ等をしている。食器も箸も一人ひとりの物で食事を楽しんで頂いている。	利用者と一緒に近くのスーパーへ食材を買いに行き、個々の力に合わせて調理・盛り付け・片づけ等も共に行なっている。マイ食器・箸を使い、利用者と職員が同じ食卓を囲んで楽しく食事できるよう雰囲気作りも大切にしている。月1回皆で外食に出掛け、旬の物を味わい気分転換にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表に摂取量も記入している。1日の水分量は水分表に記入し把握して飲み込みが悪いような方にはトロメリンで対応したり飲みやすいものに変えたりして、1日の量をできるだけ飲んでもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日1回夜寝る前に必ず歯磨きの声かけをしてやっている。入れ歯の方は夜に外して、洗浄剤につけおきして清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄のパターンを把握しており声がけにて誘導している。日中は出来るだけトイレでの排泄が出来るように利用者の様子や行動にも充分気を付けて見守りや声かけを行っている。	職員は一人ひとりの排泄パターンに応じたトイレへの声がけ・誘導を行ない、自立に向けたサポートをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬だけに頼るのではなく、食べものや水分・運動などにも関係があるので出来るだけいろんな工夫をしている。たとえば、お昼にデザートとしてヨーグルトを出したヤクルトを出している。後は散歩に行ったり体操したりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の目安で入浴を行っていますが希望があれば他の日にもできる体制にはなっている。ゆっくり入浴して頂けるように順番にも配慮している。	入浴は利用者の希望する時間に合わせ実施している。入浴前に健康チェックをし、個人の体調に合わせて熱さ、順番等の工夫をしている。危険性にも十分配慮し、ゆっくり楽しめるように入浴支援を行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの表情や体調に考慮しながら午睡の声かけをしたり、いつでも休める場所(ソファや椅子)で休息できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬の説明を活用し、職員全員で確認・理解しながら服薬確認、症状の変化の確認につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意分野、好きな事を尊重し役割を見つけ力を発揮できるような支援をし常に感謝の気持ちを伝えるようにしている。気分転換を図り外出に行ったり、コンサートに行ったりしてでかける機会を多く心がけている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前骨折しておりDr、ストップがかかっている入居者や戻ってこれない方がいて今は、職員と共、定期的に買い物や散歩に出かけたりしている状況です。	事業所のすぐ前に広い公園があり、個人に合わせて職員と一緒に散歩をし、季節を感じている。月1回は外出の計画を立て、花見、さくらんぼ狩り、チャリティコンサート、映画などに出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の支払の際は預かり金を渡して、出来るだけ本人に支払って頂く様に支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話は使えるようにしてあり希望があればいつでも対応できる状態にある。手紙はなかなか書く機会がないが、たまに利用者皆さんにお手紙を書いてもらい、家族の方に送っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには皆さんで楽しんだ写真思い出の写真や、折り紙、塗り絵等の作品を飾っており、時々それを見て思い出します。居室にはお誕生会のカードなど飾ってありそれぞれ個性ある部屋になっています。各部屋には冷暖房有り、カーテンありその時その時にあった対応に心がけている。	日中のほとんどを過ごすホールには、写真や利用者の手作り作品を飾っている。「上杉節」の歌詞を大きく貼り、毎朝皆で合唱して楽しんでいる。階段前には植木鉢を置き、玄関にはチャイムを付けたり、危険箇所には気配りや工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にテーブルと椅子を置いていつでもそこで休んだり談話したり出来る空間に確保し居場所の工夫をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや椅子、写真や日用品など持ってきていただき生活スタイルもご本人に合わせ居心地の良さに配慮している。	家族等と話し合い、懐かしい写真やぬいぐるみ等の馴染みの物を持ってきている。生活感もあり、安心して寛げるよう心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、トイレ、廊下、浴室に手すりを設置し、安全確保と自立への配慮をしている。又利用者には、ゆっくりと分かるように関わり本人の不安、混乱を取り除き状況に合わせた対応を心掛けている。		